

未来を描く

No.5

生徒指導担当：王子明紀



1%の不純物



学生の頃に読んだ本に載っていた話です。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の金管セクションは、独特の音色を響かせることで有名です。これは古い楽器を伝統的に受け継いで演奏しているからです。しかし、時とともに楽器の摩耗が激しくなり、日本のヤマハに伝統の音色を最新の製造技術で再現してほしいという依頼をしました。

トランペットは、一般的に黄銅や丹銅といった真ちゅうでつくられます。ヤマハの技術をもってすれば、100%黄銅や丹銅を使って作ることができます。何も不純物が混じっていない素材で再現したものの、伝統的な音が再現できません。そこで、ヤマハの技術者は、ウィーンに伝わる楽器を分析してみました。分析の結果、1%くらいの割合で鉄、鉛、ニッケルなどの不純物が含まれていることがわかりました。しかし、この不純物を人工的に混ぜることが難しく、再現作業は困難をきわめました。そして、長い時間をかけてようやく理想通りの不純物をまぜた楽器(ウィーン・フィル特注モデル)をつくることができました。演奏してみると音の割れにくい感じがそっくりなもののできたそうです。

音色が楽器の個性とするならば、それがたった1%の素材で決まるという事実に驚きました。そして、二つのことを考えました。一つは、人の個性も同じではないかということです。無理に個性的であろうとしなくても、たった1%違えば十分なのだと思うと気持ちが楽になりました。もう一つは、不純物が音を決めるという痛快さです。不純物というと欠点のような気がします。人でいえば短所です。しかし、不純物が美しい音を決めるのならば、自分が短所だと思っていることも長所になるのではないかと考えるようになりました。みなさんは、短所と長所をどのように考えていますか。

人前で話すのが苦手な短所だと思っているけれど、実はあなたは人の話を聞く名人かもしれません。うなずいて聞いてくれるだけで、救われる人はいます。優柔不断と思っている短所は、じっくり物事を考えられる長所かもしれません。長所は短所のすぐ近くにあるのかもしれません。ついつい人と比べて、自分があるもこれもできないと思い、短所だらけだと落ちこむ人もいるでしょう。大丈夫です、短所のそばにはきっと長所があるはずです。

すべて人と同じであろうとする必要はありません。不純物が美しい音色を決めるのですから。また、無理に人との違いを出そうとする必要もありません。音色を決める不純物は、たった1%なのですから。